

(2022.2.5)

兵庫史を歩く No.23 いにしへの芦屋再発見 水車臼跡～猿丸翁頌徳碑～阿保親王塚

①水車臼跡

江戸時代から明治の初め頃にかけて芦屋川上流には急流を利用して多くの水車場が建てられていた。18世紀以降ではその目的は主に二つが中心であった。

- (1) 菜種油の生産……菜種油は灯油であり、当時の照明具となる生活必需品であった。
- (2) 酒造用の精米……灘の下り酒は江戸で大きな需要があり、徳川幕府も重視した商品であった。

つまり六甲南麓地域の水車群が生産する菜種油と酒造用米は江戸時代の社会や経済にとってとても重要なものであった。

しかし、明治時代になると石油ランプの普及により、菜種油は次第に需要が減少した。また、第一次大戦（1914～18）後に電動機が普及し、精米にも利用されるようになった。これらの事情により水車がだんだんと利用されなくなった。最後のダメ押しは昭和13年（1938）の阪神大水害であった。これにより大きな被害を受けた水車は再び復旧されることはなかった。

これも時代の流れであり、今は阪急芦屋川から上流部の民家の石垣に水車臼跡を見ることができるのみである。ただ今も芦屋川上流に「水車谷」の地名が残っており、また「水車谷」のバス停がある。



②「細雪」文学碑

文豪谷崎潤一郎の小説「細雪」の文学碑。

生誕100年を記念して昭和61年（1986）に芦屋川から運ばれてきた花崗岩で作られた。

文字は松子夫人の書。「こいさん、頼むわー」。

「細雪」の有名な冒頭部分です。芦屋を舞台に大阪の四人姉妹を描いた作品です。芦屋の地で松子夫人の姉妹と共に過ごした日々が「細雪」を生んだと言われている。

碑の裏面には「細雪」に書かれている、昭和13年の阪神大水害による芦屋川の氾濫の様子が刻まれている。



③猿丸翁頌徳碑

猿丸又左衛門安時は幕末から明治維新にかけて、蘆屋村の村長を務めた。歌人猿丸太夫の44代目の末裔と言われている。

この地方は日照りが続くと田畑が干ばつとなり、水争いが大きな社会問題となっていた。

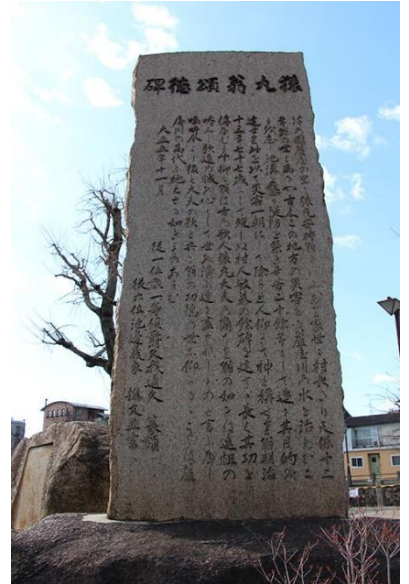
そこで翁は18ヶ村の総代庄屋として皆をまとめ、天保12年(1841)から20年余の歳月をかけて、治水のために谷を堰き止め、奥池を造った。

石碑はその翁を讃えるために大正5年(1916)に建立された。

芦屋神社社殿の裏庭に翁76才の時に奉獻梅樹した時の句碑がある。

「万代のめさにと梅をうえおかば

花咲くごとに神やめづらん」



④「阪神大水害芦屋川決壊之地」石碑

昭和13年(1938)6月28日から7月5日にかけて阪神地方は空前の大水害に見舞われた。

暴風を伴う豪雨により土石流が発生し、芦屋川と宮川が氾濫した。決壊場所を示す石碑が開森橋付近に建てられている。



⑤芦屋神社

古くは「芦屋天神社」と呼ばれていた。明治時代に神社合祀令により、芦屋村に点在するすべての神社を合祀、一挙に17柱もの神々をお祀りする芦屋村の総鎮守となった。そして昭和21年(1946)に現在の「芦屋神社」と改称した。

・芦屋神社境内古墳

神社の西側には古墳時代(7世紀)後期の横穴式石室墳(市指定史跡)がある。この古墳は玄室(死者を埋葬する墓室)の天井石が芦屋市内で唯一完全な形で残っており、かつ墳丘の形も良好だという点で価値がある。

この石室内に「水神社」が祀られている。

・水神社

芦屋川上流にある「弁天岩」と呼ばれる大きな岩に祀られていた水の神様が後になってここ芦屋神社に移され、「水神社」として祀られている。

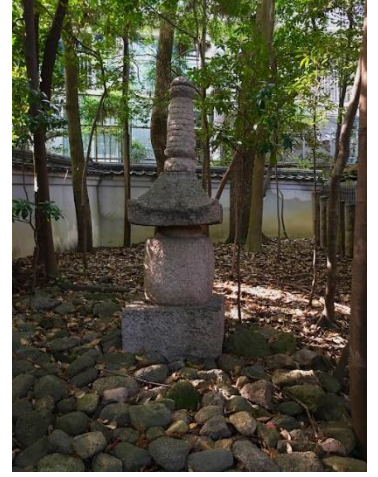


・伝猿丸太夫の墓

境内に猿丸太夫（※）の墓と伝わる石塔がある。
高さ 21cm の台座の上に 1.32m の高さの石塔で、
鎌倉時代の作とされている。

（※）猿丸太夫……「小倉百人一首」の 5 番目の
歌を詠んだ歌人であるが、
生没年はおろか名前すら公的
資料には残されていない
まさに謎の人物である。この
歌も「古今和歌集」では
「詠み人知らず」とされている。

ただ芦屋には代々猿丸家という名家が存在しており、
芦屋市長をも出している。



「奥山に紅葉ふみ分けなく鹿の声きくときぞ秋はかなしき」

⑥山手緑地

芦屋神社のすぐ山手にある。この辺りは昭和初期に松風山荘と呼ばれた高級住宅地で、
山手緑地はその一軒の別荘であった所で、緑地公園として整備された。市民が選んだ
「芦屋の未来遺産」100 選にもあげられている。

⑦阿保親王塚

JR 芦屋駅の北東約 1km の住宅地の
なかにうっそうとしている森がある。
この中に阿保親王塚と言い伝えられて
いる古墳がある。この地は古くから
「親王さんの森」として親しまれ、
変わりゆく芦屋の中で静寂を今に保ち
続けている。

阿保親王（※）は芦屋周辺を領地と
していたとの言い伝えがある。親王は

この地とこの土地の人々を愛し、親王塚に黄金一千枚と金の瓦一万枚を埋めて、飢饉の際には
掘り起こして穀物と換えるようにと言い伝えたという伝説も残っている。



（※）阿保親王……平安遷都の 2 年前の延暦 11 年（792）に平城天皇の第一皇子として
生誕。桓武天皇の孫にあたり、在原業平の父でもある。
本来ならば天皇になるはずの人物であるが、平城上皇が係わった
天皇の座をめぐる権力闘争である薬子の変（810）により大宰府に
流された。弘仁 15 年（824）帰京を許され、宮内卿や兵部卿を歴任し
承和 9 年（842）打出にて 51 才で亡くなった。

この古墳は周囲 356m、面積 7400 m²の方形区画の中に、直径 38m、高さ 3mの円墳がある。出土品などからみて、この古墳は今から約 1500 年前のものと考えられている。阿保親王の没年とは大きく異なっているが、なぜ阿保親王と結びつけられたのかは不明である。ただ享保 20 年（1735）成立の地誌「摂津志」にはすでに「阿保親王墓」との記載がある。また、阿保親王の末裔と称する長州藩毛利氏が江戸時代に親王塚の大改修を行っている。

いづれにしても阿保親王が芦屋一帯を所領したとか、打出で没したという記録は正史には見られない。親王とこの地を結ぶのは伝説や伝承による部分が多いが、今なお芦屋の人々は阿保親王に親しみを抱いている。

⑧阿保天神社

創建年代等不詳であるが、元は「西打出天満宮」といい、御祭神は菅原道真であった。昭和 20 年 8 月の阪神大空襲により、ほとんどの建物が焼失した。その 7 年後に今の本殿や拝殿などが新しく建てられた。その際芦屋にゆかりの深い阿保親王と在原業平を加えてお祀りし、阿保天神社と呼ばれるようになった。

- ・ 狛犬……よく見ると左の狛犬には小さな狛犬がもう一匹おり、また右の狛犬は毬を持っている。
- ・ 力石……この力石はこの神社の歴史を物語る貴重な石で、祭礼時に氏子衆によってこの石を担ぎ上げて「力くらべ」に使用した石である。それぞれの石に重量が刻まれていた。現在読み取れるのは 2 つのみで、その他は永い年月で風化が進み、刻印が残っていない。

「50 貫（約 187.5kg）」「40 貫（約 157.5kg）」

1 貫＝3.75kg

⑨業平歌碑

日本文学史上、歌物語の代表作として知られる「伊勢物語」は作者不詳であり、恋愛ストーリーを軸としたフィクションであり、作中に確かな名前は出てこないが、在原業平（※）が主人公と考えられている。物語を構成する 125 話のひとつ第 87 段には在原業平の芦屋の別荘でのエピソードが描かれている。このことから業平の別荘が芦屋にあったとされており、平安朝以降芦屋の地は在原業平ゆかりの歌名所として有名になった。それと共に芦屋には業平に関する伝説と地名が生まれた。

業平の別荘がどこにあったかは史実として確定は難しいが、近世の地誌では芦屋川の左岸、業平町付近ではないかと考えられている。

松ノ内緑地には「業平歌碑」がある。

在原業平歌碑



世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

(※) 在原業平……今から 1100 年ほど前の芦屋にゆかりのある平安初期の歌人。
阿保親王の第五皇子で、祖父は平城天皇、母は桓武天皇の皇女。
臣籍降下して在原姓を与えられた。
六歌仙の一人に数えられる優れた歌人である一方で、容姿端麗で
今でいえばアイドルそしてプレイボーイと言えようか。

(次回予告)

2022. 3. 26

兵庫史を歩く No.24 三木合戦と金物の町
雲龍寺～金物資料館～湯の山街道